

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 1 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24310188

研究課題名(和文) 現代中東におけるムスリム同胞団の総合的研究：各国での政治活動と国際ネットワーク

研究課題名(英文) The Muslim Brotherhood in the Contemporary Middle East: A Study on Its Political Activities and International Networks

研究代表者

横田 貴之 (Yokota, Takayuki)

日本大学・国際関係学部・准教授

研究者番号：60425048

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 11,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、現代中東最大のイスラーム主義運動であるムスリム同胞団を対象に、主に現地調査とアラビア語資料解析によって、中東6ヶ国(エジプト、シリア、ヨルダン、クウェート、パレスチナ、アルジェリア)におけるその政治的思想・活動の実態を明らかにし、各国間における同胞団の国際ネットワークの現状を論究した。「アラブの春」後の同胞団の政治的台頭・低迷という具体的事例に基づき、その思想と活動を実証的に分析することで、各国同胞団が独立性を保ちつつも一定の協力関係を維持していると明らかにした。

研究成果の概要(英文)：The aim of our study project is to explore the political ideologies and activities of the Muslim Brotherhoods in Egypt, Syria, Jordan, Kuwait, Palestine and Algeria and their international networks by field researches and analyses of Arabic primary sources. Referring to the political rises and declines of the MBs after the 'Arab Spring,' we made empirical studies and demonstrated that they tried to maintain the cooperative relations while each MB kept its own independence.

研究分野：中東地域研究

キーワード：地域研究 比較政治学 フィールドワーク 思想研究 国際研究者交流 イスラーム主義

### 1. 研究開始当初の背景

中東最大のイスラーム主義運動であるムスリム同胞団は、国内外の現代中東研究においてその重要性が常に言及されてきた。しかし、調査の困難さやイスラーム主義運動へのバイアスから、いくつかの先駆的な研究を除いては、実態解明は不十分なままに推移してきた。当時はようやく各国単位の同胞団に関する実証的研究が登場し始めた段階であった。しかし、これらの研究の多くは、思想、歴史、政治活動などを断片的・部分的に考察する研究であり、各国同胞団の実態把握という点からも、比較の視座の点からも、総合的な同胞団理解には至っていなかった。さらに、同胞団の国際ネットワークに関する研究はほぼ不在であった。

2011年の「アラブの春」では、同胞団が政変後の有力政党となる事例(エジプト)や、抗議活動の牽引役として活躍する事例(ヨルダンやシリア)が見られ、同胞団は各国政治における最重要の政治主体となっていた。しかし、研究蓄積の不足ゆえ、同胞団に関する十分な考察を行えないのが現状であった。大変動に直面する中東政治を的確に理解するためには、各国同胞団の実態を正確に整理・把握し、その政治的役割を中東全域という広い視座で検証する必要があると考えられた。

こうした理由から、本研究プロジェクトは、同胞団研究の抱える上述の問題点の克服、そして同胞団の総合的な理解を目指すことを目的に発足した。

### 2. 研究の目的

本研究の目的は、中東6ヶ国(研究プロジェクト発足当初はエジプト、パレスチナ、シリア、レバノン、ヨルダンの5ヶ国)におけるムスリム同胞団・同胞団系組織を対象に、その政治思想および活動の実態を明らかにし、各国間における同胞団ネットワークの現状を解明することであった。なお、申請期間中にアルジェリアを追加し、対象国を6ヶ国にした。これらの作業を通じ、現代中東における同胞団の総合的研究の構築を目指した。

当研究が3年間(事業期間延長の承認を受けて最終的には4年間)の申請期間中に解明を目指したのは、次の6点であった。

- (1) 同胞団・同胞団系組織の活動が顕著な6ヶ国を対象に、主に文献調査によって、各国同胞団の創設から現在に至るまでの発展の歴史を解明すること。
- (2) 各国の同胞団の活動指針となる思想構成について、同胞団創設者ハサン・バンナー、各国同胞団設立者、代表的イデオログの著作などから考察し、現在の実際の活動にいかん反映されているのかを調べる。文献調査と現地調査により明らかにすること。

- (3) 各国同胞団のリーダーシップ、指導者選出方法、最高意思決定機関の構成、本部・地方支部の関係、メンバー・支持者の動員方法など、組織構造を調べる。政治活動のみならず、社会奉仕活動についても、現地調査と文献調査によって明らかにすること。

- (4) 6ヶ国同胞団の調査(1)~(3)を踏まえ、各国同胞団の組織的・思想的な共通点と相違点を比較考察から解析することで、各々の独自性を抽出し、国境を越えた同胞団の共通性・統一性を発見すること。また、比較政治学の分析枠組みを活用し、各国の政治体制・社会情勢の中で同胞団の政治活動が有する意義を検討すること。

- (5) 文献調査と現地調査から、同胞団間の国際ネットワークの発展経緯と実態を解明すること。「同胞団国際機構」など制度化された各国同胞団間のネットワークのみならず、メンバー間の交流などの制度化されていないネットワークも研究射程に収めた。同胞団の国際ネットワークの実態解明により、自立性の強い各国同胞団に協力関係をもたらす要因を明らかにすること。

- (6) (1)~(5)を踏まえ、同胞団の政治活動の意義を現代中東政治という巨視的な視座から論究すること。

### 3. 研究の方法

本研究プロジェクトでは、上述の研究目的を念頭として、具体的には同胞団の思想、組織構造、国際ネットワークの3点を中心に、研究会や現地調査などを行い、国内外での学会発表、各種講演会、論文・図書などの刊行、国際シンポジウムの開催などによって研究成果を発信した。

#### <平成24年度>

初年度は、情報収集や現地調査など基礎作業を中心に、各国同胞団の活動実態の解明に重点を置いた研究活動を進めた。

- (1) 現地調査・文献調査：研究代表者(横田)は、エジプトにおいて同胞団および傘下政党「自由公正党」関連政党「ワサト党」、現地調査機関などを訪問し、同胞団メンバー・有識者へインタビューを行った。研究分担者・末近はバハレーン・英国でシリア同胞団について、同じく吉川はヨルダンで同国同胞団および傘下政党「イスラーム行動戦線党」について、それぞれメンバーに対する調査を実施した。各人が調査地において資料収集に従事し、それに基づく思想分析を行った。さらに、NIHUイスラーム地域研究(上智大学拠点)との協力で、同胞団創設者ハサン・バン

ナーの論考集の翻訳作業を行い、同胞団思想の分析を進めた。

- (2) 研究会：研究代表者・分担者のみによる研究会を1回実施した。NIHU イスラーム地域研究(上智大学拠点) 京都大学(地域研究統合情報センター)などとの共催研究会を計4回実施した。
- (3) 情報収集・分析：研究代表者・分担者・協力者が各担当国(エジプト、シリア、ヨルダン、パレスチナ、クウェート)の同胞団関連情報を収集し、整理作業を行った。

以上の研究活動によって、これまで解明されなかった各国同胞団の活動実態について、主に次の点を明らかにした。各国同胞団の創設から現在に至るまでの発展の歴史。各国同胞団の活動指針となる思想構成、および創設者バンナーの思想的影響。各国同胞団のリーダーシップ、指導者選出方法、意思決定過程。これらは、これまでの同胞団研究において十分に分析されなかった課題を解明する試みであった。

<平成25年度>

平成25年度は、各国のムスリム同胞団・同胞団系組織の活動実態の解明を行うと同時に、研究プロジェクト構成員の役割分担に応じた共同研究を行った。また、研究代表者(横田)と研究分担者(末近・吉川)はハンガリーで開催されたPSS-ISA国際学会において成果発表を行った。

- (1) 現地調査・文献調査：研究代表者は、エジプトにおいてムスリム同胞団、関連NGO、諸協力政党に関する現地調査を実施した。末近は英国などでシリア同胞団について、吉川はヨルダンにおいて同胞団と傘下政党「イスラーム行動戦線」について現地調査を行った。研究協力者・石黒は、クウェートなど湾岸諸国において同胞団に関する調査を行った。また、各人が調査地で資料収集に従事し、それに基づく思想分析を行った。NIHU イスラーム地域研究(上智拠点)との協力で、バンナー論考集の翻訳作業を継続した。
- (2) 研究会：研究代表者・分担者のみによる研究会を1回実施した。NIHU イスラーム地域研究(上智大学拠点)などとの共催研究会を計3回実施した。
- (3) 情報収集・分析：研究代表者・分担者・協力者が各担当国(エジプト、シリア、ヨルダン、パレスチナ、クウェート)の同胞団関連情報を収集し、整理作業を行った。

以上の研究活動によって、これまで十分に解明されてこなかった中東諸国の同胞団の活動実態について次の点を明らかにした。

各国同胞団の歴史、現状、思想、組織構造。各国同胞団の活動指針へのバンナー思想の影響。各国同胞団の国際的連関。

<平成26年度>

当初予定では最終年度である当年度は、各国同胞団の諸活動と国際的ネットワークの実態分析および研究成果の取りまとめを行った。研究代表者(横田)と研究分担者(末近・吉川)はポーランドで開催されたISA-PDG国際学会において成果発表を行った。また、研究プロジェクトの総括として、エジプト・アルジェリアから有識者・研究者を招聘し、国際シンポジウムを上智大学イスラーム地域研究センターとの共催で実施した。研究代表者が編者となり、当該シンポジウム論集「Revisiting Islamism in the Middle East after the 'Arab Spring'」を刊行した。

- (1) 現地調査・文献調査：研究代表者は、エジプト・英国・トルコにおいて同胞団、関連NGO、諸協力政党に関する現地調査を実施した。末近はシリア同胞団、吉川はヨルダン同胞団について訪問聞き取り調査実施した。研究協力者・渡邊は、アルジェリアでイスラーム主義運動に関する現地調査を行った。また、NIHU イスラーム地域研究(上智拠点)との協力で、バンナー論考集の翻訳作業を継続した。その成果として、研究代表者が編訳者の一人となり、『ムスリム同胞団の思想 ハサン・バンナー論考集』(上巻)を刊行した。
- (2) 研究会：NIHU イスラーム地域研究(上智大学拠点)などとの共催研究会を計4回実施した。
- (3) 情報収集・分析：研究代表者・分担者・協力者が各担当国(エジプト、シリア、ヨルダン、パレスチナ、クウェート、アルジェリア)の同胞団関連情報を収集し、整理作業を行った。

<平成27年度>

申請期間中にエジプトにおける政変が起こり、現地調査が困難となったため、当該年度について1年間の事業期間延長の承認を受けた。追加的な現地調査として、研究代表者がエジプト同胞団について、トルコ亡命中の同胞団メンバー・関係者に対する訪問調査を実施した。上智大学研究センターとの共催で研究会を1回開催した。また、研究代表者が編訳者の一人となり、『ムスリム同胞団の思想 ハサン・バンナー論考集』(下巻)を刊行した。

#### 4. 研究成果

本研究の成果は、研究代表者、分担者、協力者がそれぞれの分担に応じた成果を国内外学会での発表、研究論文・図書の刊行、各種講演などの形で公表済みである。研究プロジェクト発足当初の目的に照らし合わせると、おおむね次のとおりとなる。

まず、各国同胞団の活動実態・思想・組織形態については、現地調査および一次資料解析によって実態解明を行った。研究プロジェ

クトは「アラブの春」後の同胞団の政治的台頭と退潮の時期と重なったため調査が急速に困難となったが、各国同胞団が各々の置かれた政治・社会状況に応じて、活動内容や組織形態を柔軟に変化させていることが明らかになった。また、バンナー思想は同胞団思想の根幹をなす思想である一方、各国の政治的文脈の中で他の同胞団思想家の重要性も増減した。そこには、各国同胞団の独立性、自立性/自律性を指摘することができる。

同胞団の国際的ネットワークについては、各国同胞団の姿勢に濃淡がうかがえるものの、各国同胞団の独立性や自立性/自律性を担保した形で、一定の協力関係が維持されていることが明らかになった。いずれも、精神的・個人的紐帯については否定することがなく、各国同胞団間の関係強化には肯定的であったが、状況に応じて変化しうるものであることがうかがえた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計25件)

横田貴之、ムスリム同胞団創設者ハサン・バンナーの「行動の思想」、史林、査読あり、第98巻第1号、2015、172-201

横田貴之、ムバーラク政権によるムスリム同胞団のコオペレーションの再考、アジア経済、査読あり、第55巻第1号、2014、9-27

吉川卓郎、「生存の政治」における政府-イスラーム関係 2011年民主化運動とヨルダンのムスリム同胞団、アジア経済、査読あり、第55巻第1号、2014、28-52

末近浩太、中東の政治変動 開かれた「地域」から見る国際政治、国際政治、査読なし、第178号、2014、1-14

末近浩太、シリア問題は世界に何を突きつけたか、現代思想、査読なし、第47巻第17号、2013、183-189

吉川卓郎、大衆運動を飼いならす 「アラブの春」とヨルダン民主化運動封じ込めの過程、アジア・アフリカ研究、査読あり、第53巻第4号、2013、21-35

他19件

[学会発表](計20件)

横田貴之、エジプトにおける2つの「革命」と社会運動 制度外政治の「制度化」に関する一考察、日本比較政治学会、上智大学、2015年7月18日

横田貴之、末近浩太、吉川卓郎、Re-configured Islamist Geopolitics after the Arab Spring: Emergence of New Islamic Community in the Muslim Brotherhood's International Nexus, Collegium Citavas, Warsaw、2014年6月18日

末近浩太、The 'Resistance Axis' and Its Implication for the Post-Arab Spring Middle East Regional (Dis)order、日本中東学会、東京国際大学、2014年5月11日

吉川卓郎、Environmental and Security Issues of the Jordan River Basin, NTU-APU Joint Workshop, Nanyang Technological University, Singapore、2014年2月26日

横田貴之、末近浩太、吉川卓郎、Islamism in Democratizing States: Comparative Studies on the Muslim Brotherhood in Egypt, Syria and Jordan after the 2011 Arab Spring, PSS-ISA Joint Conference, Corvinus University, Budapest、2013年6月28日

他15件

[図書](計15件)

ハサン・バンナー(北澤義之・高岡豊・横田貴之・福永浩一編訳) 岩波書店、『ムスリム同胞団の思想 ハサン・バンナー論考集』(下巻) 2016、332

酒井啓子編( 横田貴之・末近浩太は分担執筆者) 晃洋書房、途上国における軍・政治権力・市民社会 21世紀の「新しい」政軍関係、2016年、316:168-193;222-241

横田貴之編、上智大学アジア文化研究所・イスラーム研究センター、Revisiting Islamism in the Middle East after the 'Arab Spring'、2015年、82

ハサン・バンナー(北澤義之・高岡豊、横田貴之編訳) 岩波書店、『ムスリム同胞団の思想 ハサン・バンナー論考集』(上巻) 2015、283

青山弘之編( 横田貴之・末近浩太・吉川卓郎は分担執筆者) 岩波書店、アラブの心臓に何が起きているのか 現代中東の実像、2014年、206:1-28;85-115;117-145

他10件

[産業財産権]

出願状況(計0件)

取得状況（計0件）

〔その他〕

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

横田 貴之 (YOKOTA Takayuki)  
日本大学・国際関係学部・准教授  
研究者番号：60425048

(2) 研究分担者

末近 浩太 (SUECHIKA Kota)  
立命館大学・国際関係学部・教授  
研究者番号：70434701

吉川 卓郎 (KIKKAWA Takuro)  
立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学  
部・准教授  
研究者番号：30399216

(3) 連携研究者

なし

(4) 研究協力者

石黒大岳 (ISHIGURO Hirotake)  
清水雅子 (SHIMIZU Masako)  
渡邊祥子 (WATANABE Shoko)